

# 特許情報を活用した スタートアップ等オープン イノベーション支援事業

2026年3月

一般社団法人うめきた未来イノベーション機構



# 目次

---

1. 事業目的・背景
2. スケジュール
3. 実施体制
4. 支援対象スタートアップ
5. 伴走支援
6. 情報発信
7. 事業の効果

# 1 事業目的・背景

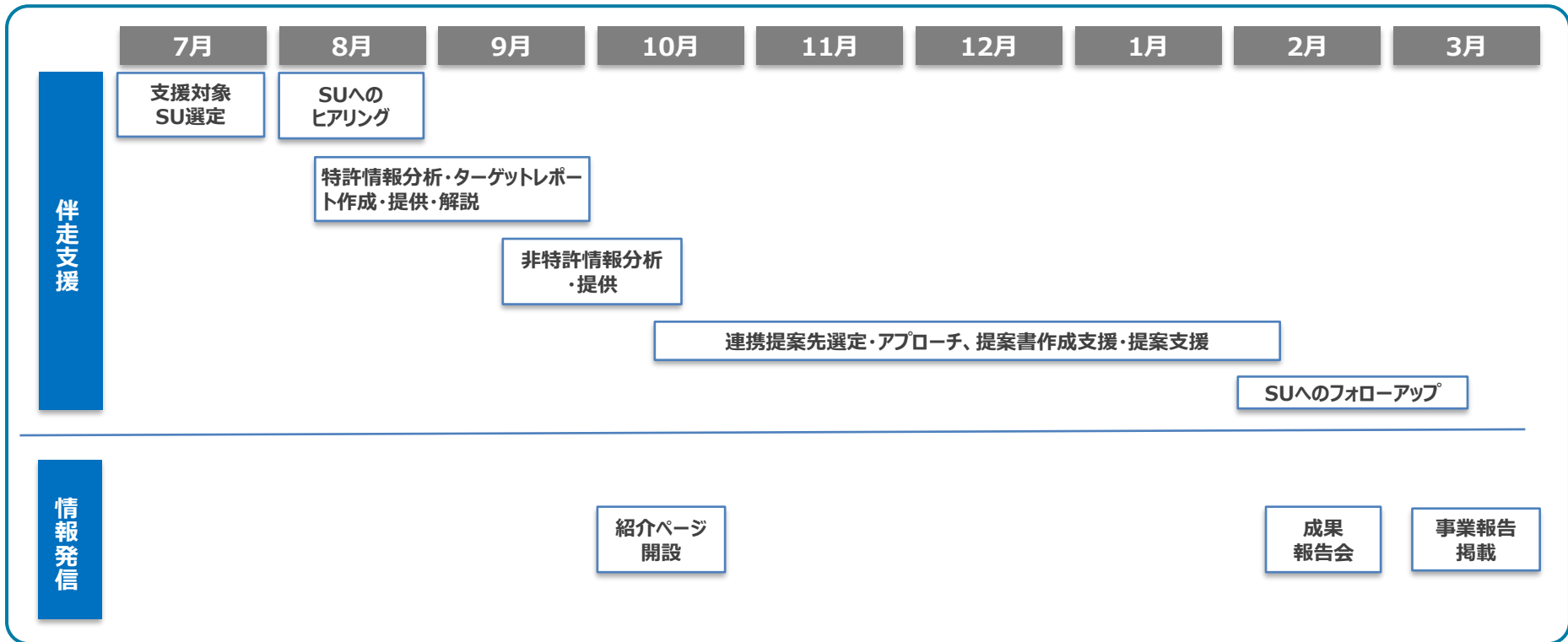
- スタートアップ（特にディープテックスタートアップ）が自社の優れた技術シーズを事業化するにあたっては、大企業・中堅企業（以下、「大企業等」）との連携（アライアンス）が重要な選択肢となります。しかし、有望な連携相手を見つけるにあたっての情報不足や機会の欠如、効果的な提案方法の難しさが障壁となり、連携に至らないケースが多く見受けられます。本事業は、特許情報の活用によりこうした課題を解決し、スタートアップ（以下、「SU」）のオープンイノベーションを促進することを目的としています。
- 特許情報は技術や市場動向の宝庫であり、SUが偶然に頼らず論理的・効率的に連携可能性が高い企業を探索することを可能にします。さらに、特許情報等を基にした提案は連携先企業のニーズに合致しやすく、SUから大企業等への効果的な提案につながれると期待されます。
- 本事業のモデルは、特許庁が実施した「令和6年度神戸市知財経営支援モデル地域創出事業」をベースとしており、支援対象とした全SUが実際に連携候補企業への提案機会を得た実績を上げており、特許情報を起点とした連携相手探索と提案手法の有効性が確認されています。
- 本事業では、この有効性が実証されたスキームを近畿において実装し、地域の産業支援機関としてSUのオープンイノベーション支援モデルの構築・定着をめざすとともに、ひいては中小企業等による知的財産の保護・活用促進に寄与します。

## 2 スケジュール

事業実施期間：2025年7月1日～2026年3月31日

下記スケジュールのとおり事業を実施。

- 伴走支援：5社のSUに対し、特許情報を活用した大企業等との連携支援。
- 情報発信：本事業の紹介ページ開設、成果報告会、紹介ページ内に事業報告掲載。



### 3 実施体制

以下の実施体制により事業を推進（以下、「事業関係機関」という。）

- 事務局：一般社団法人うめきた未来イノベーション機構(U-FINO)
- 地域ステークホルダー：公益財団法人都市活力研究所(関西イノベーションイニシアティブ(KSII))
- 協力：特許庁、INPIT-KANSAI
- 運営委託：株式会社テックコンシリエ

※原則週1回、事業関係機関による定例ミーティング実施(事業期間中に27回)  
(INPIT-KANSAIは不定期参加)



## 4 支援対象SU

- 地域ステークホルダーであるKSIIを中心に、支援対象となる大学発SUをリストアップ。
- リストアップした中から、事業関係機関により下記のSUを支援対象として選定。

(五十音順)

企業名	事業概要	Webサイト
イーセップ株式会社	ナノセラミック分離膜技術の開発およびその関連機器・システム等の提供	<a href="https://esep.kyoto/">https://esep.kyoto/</a>
株式会社 Thinker	近接覚センサを応用した今までにないロボットセンサの事業化	<a href="https://www.thinker-robotics.co.jp/">https://www.thinker-robotics.co.jp/</a>
株式会社 ナノスパイク	半永久的に微生物を物理的に不活化するナノレベルの表面構造「NanoSpike®」の研究開発・技術提供	<a href="https://nano-koukin.jp/">https://nano-koukin.jp/</a>
株式会社 ノベルジェン	光合成の効率性と栄養吸収能力を持つ微細藻類の自然の力を活用し、気候変動、水資源の枯渇、食料安全保障といった地球規模の課題に対する持続可能なソリューション開発	<a href="https://novelgen.jp/">https://novelgen.jp/</a>
株式会社 マリ	睡眠時無呼吸症候群の診断・治療機器開発	<a href="https://marisleep.co.jp/">https://marisleep.co.jp/</a>

## 5 伴走支援

伴走支援において実施した内容は以下のとおり。

実施項目	実施内容
SUへのヒアリング	経営者から、保有するコア技術や、関心分野、連携ニーズなど、オープンイノベーションをめざす方向性や課題をヒアリングし整理（ヒアリングシートを活用）。
特許情報分析・ターゲットレポート作成	ヒアリング結果をもとに特許調査の論理式を設計。論理式により特許検索を実施し、連携候補企業を探索・分析。「ターゲットレポート」として取りまとめ、SUに提供・解説。
非特許情報分析	特許情報だけでなく、連携候補企業のIR情報等をもとにした非特許情報分析を実施、SUに提供。
連携提案先選定・アプローチ	特許情報および非特許情報の分析結果をもとに、SUが主体となって連携提案先(数社)と優先順位を決定。事業関係機関のネットワークも活用し、連携提案先へのアプローチを支援。
提案書作成支援・提案支援	提案先企業の決定後、SUと提案先との協業により実現可能な提供価値等を提案する「連携提案書」(※)の作成を支援するとともに、提案の場を設定。
SUへのフォローアップ	提案後の状況のヒアリングや事業の振り返りを行うフォローアップ面談を実施。

※連携提案書は、INPITのWebサイトに掲載されている連携提案資料(ひな形)に基づき作成  
掲載先：[https://www.inpit.go.jp/katsuyo/oyakudachi/dl\\_proposal.html](https://www.inpit.go.jp/katsuyo/oyakudachi/dl_proposal.html)

## 5 伴走支援（フォローアップ面談でSUから寄せられた声）

提案後(約1カ月後)に実施したフォローアップ面談では下記のような声が寄せられた。

項目	寄せられた声
特許分析・連携企業の探索について	<ul style="list-style-type: none"><li>・特許分析は自社単独で実施するのは難しく高い価値を感じた。今後も参考になるデータベースとなる。</li><li>・特許分析で抽出されてきた企業と、自社がこれまで想定していた連携候補が同じような傾向で、自社の考え方が間違っていないことを特許分析の面から確認できた点は良かった。</li><li>・これまで連携候補先として想定していなかった企業の発見があった。</li><li>・連携候補を絞り込む要素として、大企業の新規事業開発に対するスタンスのようなものが加味されると、マッチングの精度がより高まるのではないかと感じた。</li></ul>
連携提案について	<ul style="list-style-type: none"><li>・これまでは自社の技術に関心を持った大企業からの声掛けから商談をすることがほとんどだったが、自社から提案する機会が得られた。</li><li>・自社だけではアプローチが難しい企業への提案が実現した。</li><li>・相手先が積み上げてこられた技術を否定するのではなく尊重し、一緒に新しいビジネス・関係性を築いていく提案手法は大変重要な視点だと感じた。ノウハウとして取り込んでいきたい。</li><li>・これまでの商談では技術の紹介が中心だったが、技術だけではなく連携で生まれる「シナジー」を軸にし提案する視点を新たに持つことができた。</li><li>・提案書でのビジネスモデルや資源の整理の仕方は、今後もぜひ取り入れていきたい。</li></ul>
事業全体について	<ul style="list-style-type: none"><li>・事業を通じて、自社の課題を明確化する機会にもなった。</li><li>・複数の大企業への提案機会があると良い（連携の成否はその時の事業環境やタイミングも影響するため、1社への提案だけでは成約の確率は高まりにくい。ニーズヒアリングの観点からも提案の機会が多くあると良い。）</li><li>・事業の初期に、事業全体のインプットがもう少しあると良かった。</li></ul>

## 6 情報発信

情報発信として実施した内容は以下のとおり。

実施項目	実施内容
事業紹介ページの開設	事務局であるU-FINOのWebサイト内に、事業概要の紹介ページ(※)を開設。 ※事業紹介ページ： <a href="https://u-fino.com/program/startup/">https://u-fino.com/program/startup/</a>
成果報告会の開催	「知財から始まるオープンイノベーションの新しいカタチースタートアップ×事業会社・マッチングの現場から」(※)と題し、本事業の成果報告会を実施。本事業の概要および取組内容・成果等の報告や、支援対象SUとSUの提案を受けた大企業が登壇するトークセッションにより、具体的な取組事例の共有を通じて、本事業や支援手法の有効性等を発信した。 ※成果報告会概要： <a href="https://u-fino.com/event/list/detail/000501.html">https://u-fino.com/event/list/detail/000501.html</a>
事業報告の掲載	事業報告を紹介ページに掲載することで、本事業を広く発信した
その他	事業期間中に日経BP社から、支援対象SU 2社および事業関係機関が本事業に関する取材を受け、日経クロステックに掲載された。

## 6 情報発信（成果報告会概要）

日時：2026年2月27日(金)

場所：グラングリーン大阪 北館 JAM BASE 6階 CONFERENCE 6-4&6-5

主催：一般社団法人うめきた未来イノベーション機構（U-FINO）

共催：関西イノベーションイニシアティブ（KSII）

16:00 開会

- ・ご挨拶（一般社団法人うめきた未来イノベーション機構 理事長 中石 齊孝）
- ・本事業の概要および取組内容のご紹介

16:20 トークセッション

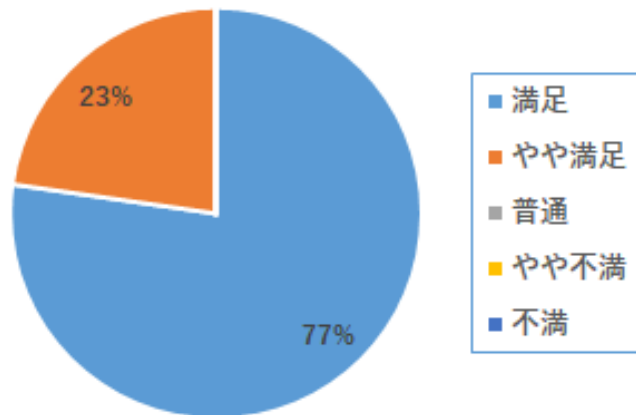
- ・伊藤 健 氏（株式会社ナノスパイクCTO／関西大学 システム理工学部 教授）
- ・後藤田 祐己太 氏（富士フイルムホールディングス株式会社 知的財産部 知財企画業務グループ統括マネージャー）
- ・高田 龍弥 氏（経済産業省特許庁総務部普及支援課 主任産業財産権専門官）
- ・廣谷 大地 氏（関西イノベーションイニシアティブ（KSII）事業リーダー / 公益財団法人都市活力研究所 主席研究員）

17:10 名刺交換会



## 6 情報発信（成果報告会アンケート結果）

参加者満足度



イベントの満足度をお聞かせください。  
(回答数：22人)

「満足」「やや満足」の合計で100%であった。

回答(満足度)を選択した理由をお聞かせください。(回答数：15人) ※下記に一部抜粋

- ・共感部分が多かった。
- ・新たな視点を得られた。
- ・実際に連携提案をされた当事者の経験談という生の声を聞くことができた。
- ・オープンイノベーションの現状が理解できた。
- ・うまくいった要因、うまくいかなかったポイントがよくわかった。
- ・具体的な取り組み事例含めて、概要を知ることができた。
- ・特許を利用することでマッチング機会を拡大できるというアイデアに感銘を受けた。
- ・SU支援において必要な機能だと思う。来年度以降の展開に期待（年度単位ではなく常設的なプラットフォームとしての展開、機会を増やす、SU単位ではなく大学単位でサポートする仕組みなど、色々な展開が考えられる。）

# 7 事業の効果

本事業の効果について、事業実施前に想定していた効果に対する実施結果として、下表のとおり整理する。

想定効果	実施結果・評価
SUの事業連携 機会創出	<ul style="list-style-type: none"><li>・支援対象SU全てにおいて、大企業との具体的な提案機会を創出することができ、特許情報を起点とした連携相手探索と提案手法の有効性が改めて確認された。</li><li>・これまで接点を持ち得なかった大企業との新たな接点の創出にもつなげることができた。</li></ul>
具体的な連携成立 の可能性	<ul style="list-style-type: none"><li>・事業を通じて、具体的な連携に向けた協議を進めているSUも生まれている。</li><li>・また、具体的な連携には至っていないが、継続した関係性の構築に成功したSUも存在し、将来を含めた連携成立の可能性に期待を持てる結果が得られたものと考えている。</li></ul>
知的財産の 活用促進	<ul style="list-style-type: none"><li>・特許情報を起点とした本スキームに対する評価は総じて高く、事業を通じて得られた特許分析データや、提案手法等を取り入れようとするSUの声も数多くあった。今後の事業活動において、知財を活用する意欲喚起につながったものと考えている。</li><li>・また、本事業で得られた分析手法や知見は、社内に蓄積され、今後も継続的に活用されることが期待される。</li></ul>
地域経済への 波及効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・支援対象SUや事務局及び地域ステークホルダーにおいて、特許情報を活用した本スキームに関する知見が得られたことで、これを活用する基盤形成が進展したと考えられる。</li><li>・成果報告会の満足度も高く、本事業を契機として、大学発SUと大企業との協業への関心が一層高まり、地域におけるオープンイノベーション推進機運の醸成にも一定寄与できたものと考えている。</li></ul>

本事業は、特許情報を起点に、連携可能性が高い企業同士を、連携可能性の高い提案でつなごうとするものであり、そのプロセスは一定フォーマット化され、再現性もあることから、オープンイノベーションの手法として有効であると考えられる。